

第九
民法



114
A2651
9



民法第九卷目錄

契約篇六

質物

動產ノ質

不動產ノ質

債主ノ特權

不動產ニ付テ、債主ノ特權

動產ト不動產トニ及ホス可キ債主ノ特

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

大正官

權

債主ノ持權ヲ保ツ可キ方法

書入質ノ權

債主ノ持權及ヒ書入質ノ權ヲ記入スル

方法

書入質ノ權又ハ債主ノ持權ノ記入ヲ塗

抹スル事及ヒ増減スル事

義務者ノ不動産ヲ所有ト為シタル者ニ

對シ債主ノ持權又ハ書入質ノ權ヨリ

生スル諸件

債主ノ持權及ヒ書入質ノ權ノ消散スル

事

債主ノ持權及ヒ書入質ノ權ヲ捺除スル

方法

書入質取扱者ノ擔當ス可キ條件

抵償

權利者義務者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪
フ事

權利者ノ順序及ヒ不動産價高ノ分派

満期ノ權

占有

満期ノ權ヲ得ルヲ能ハサル原由

満期除去

満期停止

満期限數

別段ノ満期

民法第九卷

契約篇六

質物



二〇七一

第五十九條 負債者其債ヲ償フ可キノ保

證トシテ其債主ニ物件ヲ渡ス契約ヲ質ト云

二〇七二

第六十條 質物ニ動産不動産ノ二種アリ

動産ノ質

第六十一條 動産ノ質ヲ得タル債主ハ其
動産ヲ以テ貸高ノ償ヲ得可キノ權ヲ有ス可
シ

第六十二條 債主ハ質物ノ種類及ヒ性質
ト貸與ヘタル金高トテ記シタル簿冊ヘ負債
者ヲシテ押印セシメ其質物ノ證券ヲ渡シ置
ヘシ

第六十三條 甲ヨリ乙ニ金高ヲ貸シタル

證書ヲ甲ノ債主ヨリ借リタル金高ノ質物
トセント欲セハ先ツ其由ヲ乙ニ告ケ其承諾
ノ上ニテ為スヘシ

第六十四條 甲ノ負債ノ保證ノ為メ乙ヨ
リ自己ノ動産ヲ質物トシテ甲ノ債主ニ與フ
ルヲ得ヘシ

第六十五條 債主ハ負債者其契約ノ期限
ニ至リ其債ヲ拂ハサル寸ハ其質物ヲ自己ノ

大正官

隨意ニ為スヲ得ヘシ

第六十六條

債主ハ此為

契約部

ニ定メタル

規則ニ循ヒ已レノ過失ニ因リ質物ヲ滅盡破
壞シタルノ責ニ任ス可シ

又負債者ハ債主其質物ヲ保全スルニ付キ必
要ニシテ且資益アル費用ヲ債主ニ算計ス可
シ

第六十七條

甲ノ乙ニ貸シタル金高ノ證

書ヲ甲ヨリ自己ノ負債ノ質トシテ丙ニ與ヘ
其證書ニ記シタル金高ニ付キ息銀ヲ生スル
寸ハ丙其息銀ヲ以テ已レノ得可キ息銀ノ償
ニ充テ用フ可シ

若シ又甲ヨリ乙ニ貸シタル金高ニ付キ息銀
ヲ生スルト雖モ丙ヨリ甲ニ貸シタル金高ニ
付キ息銀ヲ生スルトナキ寸ハ丙其質物トシ
テ得タル甲ノ證書ニヨリ得ル所ノ息銀ヲ以

テ已レノ得可キ元銀ヲ償ニ充テ用フ可シ
 第六十八條 負債者ハ債主ノ其質物ヲ破
 壞シタル寸ノ外其負債ノ元銀及ヒ息銀並ニ
 諸費用ノ総高ヲ拂ヒシ後ニ非サレハ其質物
 ノ取戻ス可キノ訴ヲ為ス可カラス
 負債者其債ノ質トシテ債主ニ物件ヲ與ヘタ
 ル後其債主ニ對シ更ニ物件ヲ與ヘスシテ再
 ビ債ヲ負フコトアリテ旧債ヲ償フト雖モ新債

ヲ償ハサル寸ハ債主其質物ヲ還與スル及ハ
 ス
 第六十九條 負債者ノ債ヲ他ノ數人ニテ
 引受ルコトヲ得可ラス債主ノ貸高ヲ他ノ數人
 ニ分ツコトヲ得可キナト雖モ質物ハ之ヲ分ツ
 コトヲ得ス
 故ニ負債者ノ債ヲ擔當スル數人中ノ一人其
 擔當ス可キ部分ヲ拂ヒタルト雖モ其負債ノ

總高ヲ拂ハサル内ハ其質物ノ中ニテ已レノ
得可キ部分ヲ取戻サント訴フ可カラス
又債主ノ貸高ヲ他ノ数人ニ分ツテ得ヘキ
部分ヲ受取リタルト雖其質物ヲ還與スレ
未タ拂方ヲ得サル他ニ債主ノ損害ヲ為ス可
カラス

第七十條 前數條ノ規則ハ商業ニ通シ
テ用テ可カラス

不動産ノ質

第七十一條 不動産ノ質ハ必ス證書ヲ以
テ之ヲ為ス可シ

債主ハ不動産ノ質ヲ得タルニ因リ其不動産
ヨリ生スル所ノ入額ヲ収メ其貸高ニ付キ息
銀ヲ得可キ權アルナハ毎歲其入額ヲ先ツ息
銀ノ償ニ充テ用ヒ次ニ元銀ノ償ニ充テ用フ
ルヲ得可シ

第七十二條 別段ノ契約アラサル寸ハ債
 主其質トシテ得タル不動産ニ付キ出ス可キ
 税銀及ヒ毎歳ノ費用ヲ拂フ可シ
 又其債主ハ其不動産ノ為メ必要ニシテ且資
 益アル補理及ヒ修繕ヲ為スヘク若シ之ヲ為
 サルニ因リ負債者ノ為メ損害ヲ生シタル
 寸ハ之ヲ償フ可シ但シ債主ノ此等ノヲ為
 ス費用ハ其不動産ヨリ生スル入額中ヨリ取

リ用フ可シ

第七十三條 負債者ハ其負債ノ總高ヲ拂
 ヒシ後ニ非サレハ其質ト為シタル不動産ヲ
 取戻スヲ得ス
 債主ハ前條ニ記シタル税銀費用等ヲ拂フ
 ヲ欲セサル寸ト雖モ負債者ヲシテ強テ其不
 動産ヲ取戻サシムルヲ得ス但シ別段契約
 アル寸ハ格別ナリトス

第一千七百二十四條 負債者預定シタル期限ニ至
リ借高ノ拂還ヲナサス且所有ノ權ヲ渡サ、
ル寸ハ債主其權ヲ奪フ可キヲ裁判所ニ訴
フルヲ得可シ

第一千七百二十五條 第二十七十七條及ヒ第二十
八十三條ノ規則ハ不動産ノ質ニモ亦通シラ
用フ可シ

第一千七百二十六條 前數條ニ記スル所ノ規則ヲ

以テ質ト為シタル不動産ニ付債主ノ特權ヲ
害スルヲナカル可シ

不動産ヲ質トシテ得タル債主其不動産ニ付
キ債主ノ特權ヲ得タル寸ハ他ノ債主ニ等シ
ク相當ノ順序ヲ以テ此等ノ權ヲ行フ可シ

第一千七百二十七條 債主ノ特權トハ權利者一人
其義務ノ種類ニ因リ他ノ權利者ヨリ先ニ其
義務ヲ得可キノ權ヲ云フ

二九六

第七十八條 特権ヲ有スル者数人アル寸ハ其特権ノ種類ニ因リ其義務ヲ得可キ順序ヲ定ム可シ

二九七

第七十九條 特権ヲ有シタル数人其義務ヲ得可キ順序ノ相等シキ寸ハ其得可キ義務ノ高ノ割合ヲ以テ平等ニ其義務ヲ分チ得ヘシ

二九八

第八十條 官ノ會計局ノ特権及ヒ其権

ニ因リ義務ヲ得可キ順序ハ此等ノナニ當シタル別段ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス官ノ會計局ハ既ニ他人ノ得タル權利ノ故障トナル可キ特権ヲ得可カラス

二九九

第八十一條 特権ハ義務者ノ動産又ハ不動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得可シ

動産ニ付テノ債主ノ特権

三〇〇

第八十二條 特権ハ總テノ動産ニ付キ行

フモノアリ又ハ別段定マリシ動産ニ付キ行
ノ者アリ

第一千八十三條 總テノ動産ニ付テノ持權ヲ
得可キ諸件ハ左ニ記列スル所ノ者ニシテ且
左ノ順序ニ從ヒ其權ヲ行フ可シ

第一 裁判所ノ費用

第二 喪禮ノ一切ノ費用

第三 死去スル寸ノ病ニ付テノ一切ノ費

用

第四 雇入ラレシ者ノ既ニ經過シタル定

期內ノ雇賃及ヒ現在ノ定期內ノ雇

賃ノ中既ニ受取り期限ニ至リシ部

分

第五 義務者及ヒ其家族ニ給シタル日用

ノ衣食料

第一千八十四條 別段定マリシ動産ニ付テノ

債主ノ特權ハ左ノ如シ

第一

上地又ハ家屋ノ貸借ノ證書アル寸
ハ其貸主其貸債中ニテ既ニ受取ル
可キ期限ニ至リシ部分ノ償ヲ得可
キ為ノ其本年ノ收納ノ借主ノ其家
屋又ハ土地ニ具備シタル諸物件ノ
價高并ニ其土地ノ耕作ニ用フル諸
物件ノ價高トニ自キ特權ヲ行可シ

又貸主借主ヲシテ家屋ノ小補理ヲ
為サシメ又ハ總テ契約ノ如ク執行
ハシムル為メ亦同工ノ特權ヲ行
可シ

然ル土地ノ借主ヨリ種子ノ費用ノ
償又ハ本年收納ノ費用ノ償ヲ得可
キ者ハ其土地ノ貸主ヨリ先ニ收納
物ノ價高ヲ以テ其價ヲ得可キ特權

ヲ行フヲ得可シ又其土地ノ借主
ニ農業ノ器具ヲ貸借シタル者ハ其
土地ノ貸主ヨリ先ニ其器具ノ價高
ヲ以テ其貸賃ノ償ヲ得ヘシ
土地又ハ家屋ノ貸主ハ其家屋又ハ
土地ニ具備シタル動産ヲ借主其貸
主ノ承諾ナクシテ他所ニ搬運シタ
ルオハ其動産ヲ差押ユルヲ得ヘ

シ但シ其貸主ハ土地ニ具ヘタル動
産ニ付テハ三十日ノ期限内又家屋
ニ具ヘタル動産ニ付テハ十五日ノ
期限内ニ其償トシテ其動産ヲ得シ
ト許ヘタルニ於テハ其特權ヲ有ス
可シ

第二 他人ノ品物ヲ保全スル為メ費用ヲ
出シタル者ハ其品物ニ付テ特權ヲ

有ス可シ

第三

動産ヲ買入レタル寸其價ヲ拂フ可
キ期限ヲ定メタルト否トヲ問ハス
其買主未タ其價ヲ拂ハスシテ猶其
動産ヲ有スル寸ハ賣主其賣リタル
動産ニ付持権ヲ有シ且買主ヨリ更
ニ之ヲ他人ニ賣拂フヲ拒ムヲ得
可シ

此規則ヲ以テ商人ノ賣リタル物品
取戻ノ訴ニ付テノ商法ノ規則ヲ改
ムルヲナシ

第五

旅舎ノ主人旅客ヨリ算計ヲ得ルニ
ハ其旅客ノ旅舎ニ搬運シタル荷物
ニ付キ持権ヲ有ス可シ

第六

荷物運送ヲ為ス者其費用及ビ之ニ
附帯シタル費用ノ償ヲ得ルニハ其

荷物ニ付キ特權ヲ有ス可シ

ノ不動産ニ付テノ債主ノ特權

第一千八十五條 不動産ニ付テノ特權ヲ有ス

ル者ハ左ノ如シ

第一 不動産ヲ賣リタル者ハ其價ヲ得ル

為ノ其不動産ニ付特權ヲ有ス可シ

不動産ノ所有者数人ヨリ数箇ノ不

動産ヲ買入シ者其價ノ全部又ハ一

部ヲ拂ハサル寸ハ最初ノ賣主第一

次ノ賣主ヨリ先ニ償ヲ得第二次ノ

賣主第三次ノ賣主ヨリ先ニ償ヲ得

其他皆之ニ倣フヘシ

第二 不動産ヲ買入ル、為ノノ金高ヲ貸

與ヘシ者其金高ハ不動産買入ノ用

ニ供スル為ノ貸與ヘシモノタルヲ

テ證書ニ記シ且賣主ノ受取書ニ其

買主ノ拂フタル金高ハ其貸主ノ貸
與ヘタル金高ナルヲ證書ニ記シ
タル寸ハ其貸主其不動産ニ付キ特
権ヲ有ス可シ

第三 建築者諸員人等家屋ヲ建造シ及ヒ
溝渠ヲ穿開シ及ヒ此等ノ物ヲ修理
シ又ハ其他ノ造築ヲ為スタメノ使
用ノ受ケタル人夫ノ賃銀ニ付テハ

其償ヲ得ル為メ亦前項ニ等シキ特
権ヲ有スヘシ

第四 又人夫ノ雇賃ヲ拂フ可キ為メ其金
高ヲ貸與ヘタル者モ亦特権ヲ有ス
可シ

但シ其權ヲ得ルニ付テハ其金高ハ
人夫ノ雇賃ニ供ス可キヲ證書ニ
記シ且人夫ノ受取書ニ其金高ヲ以

大正官

ラ其雇賃ヲ得タルトテ證書ニ記ス
可キヲ第二項ニ記スル所ニ等シト
ス

動産ト不動産トニ及ホス可キ債主ノ
特權

第十ハ十六條 原第二千百一條ニ記シタル
特權ヲ有スル者其得可キ動産ナキニ因リ不
動産ノ價高ヲ以テ其償ヲ得ントシ不動産ノ

ニ付キ特權ヲ有シタル者ノ權ト相觸ル
テアルハ此等ノ者左ノ順序ヲ以テ其償ヲ
得可シ

第一 第二千百一條ニ記載シタル裁判所
ノ費用及ヒ其他ノ諸件ニ付キ特權
ヲ有スル者

第二 第二千百三條ニ記載シタル諸件ニ
付キ特權ヲ有スル者

債主ノ特權ヲ保ツ可キ方法

二二六

第一千八十七條 權利者數人ノ間ニ於テハ不
動産ニ付テノ特權ヲ書入質取扱所ノ簿冊ニ
循々記入シタル日ヨリ後ニ非サレハ其効ヲ
生スルヲナカルヘシ但シ後條ニ記スル所ハ
格別ナリトス

二二七

第一千八十八條 第二千百一條ニ記シタル諸
件ニ付テハ前條ニ記シタル簿冊ニ記入スル

ノ法式ヲ行フニ及ハス

二二八

第一千八十九條 不動産ノ買主其不動産所有
ノ權ヲ得タル證書ノ書入質取扱所ノ簿冊ニ
寫サシムト雖氏其價高ノ全部又ハ一部ヲ未
タ渡サレルノ證アル寸ハ其賣主其特權ヲ保
ツ可シ

二二九

第一千九十條 建築者請負人等造営或ハ修
理ヲナシ又ハ其他ノ造営ヲナス為メ使用ヲ

受ケタル人夫又ハ此等ノ者ニ雇債トシテ典
ノ可キ金高ヲ貸典、其金高ヲ用法ニ証スル
ヲ得タル者ハ其建造修理ヲ為ス前ノ調書
ト其完成シタル後之ヲ其所有者ニ引渡シタ
ル寸ノ調書トシテ書入質取扱所ノ簿冊ニ記入
セシメタルニ因リ最初ノ調書ニ記入シタル
日ヨリ特權ヲ得可シ

第一千九十一條 前數條ニ記シタル特權ヲ讓

リ受ケタル者ハ之ヲ讓リタル者ニ代リテ其
者ト同一ノ權ヲ行フ可シ

書入質ノ權

第一千九十二條 書入質ノ權トハ義務ヲ行フ
為メノ保證ト為シタル不動産ニ付テノ權ヲ
云フ

其權ハ其不動産如何ナル者ノ所有トナルヲ
問ハス之ヲ行フヲ得可シ

二二八

第一千九十三條 左ノ物件ハ書入質ト為ス
ヲ得ルシ

第一 賣買ヲ為ス
其不動産ニ附帯シテ不動産ト看做ス
可キ物

第二 企上ノ不動産ノ入額所得ノ權及ヒ
其入額所得ノ權ノ繼續スル時間其
不動産ニ附帯シテ不動産ト看做ス

可キ物

二一九

第一千九十四條 動産ハ書入質ト為ス可カラ
ス

二二〇

第一千九十五條 此法律ヲ以テ船舶ニ付テノ
海上貿易ノ規則ヲ改ムルヲナシ

二二四

第一千九十六條 自己ノ隨意ニテ其不動産ヲ
賣拂ヲ得可キ權アル者ニ非サルハ之ヲ
書入質トスルヲ得ス

二一三六

第一千九十七條 幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者又ハ行衛知レサル者ノ財産ヲ引受ル者ハ親族會議ノ上ニ非レハ其不動産ヲ書入質ト為ス可カラス

但シ行衛知レサル者財産ニ付テハ裁判所ノ言渡ヲ得ヘシ

二一三七

第一千九十八條 書入質ノ權ハ証書ヲ以テ之ヲ得可シ

二一三九

第一千九十九條 義務ヲ約シタル證書ニ其現在所有ノ各不動産ノ種類ト共所在ノ地トヲ記シタルニ非ヤレハ契約ノ効ナシトス

二一四〇

第二千條 後日得ヘキ不動産ヲ書入質トナスコトヲ得ス然レ後日得可キ各不動産ヲ受取ル毎ニ之ヲ書入質ト為ス可キ旨ヲ証書ニ記シ義務ノ契約ヲ為スコトヲ得可シ

二一四二

第二千一條 義務者書入質ト為シタル現

在所存ノ不動産ノ滅盡破壊シタルニ因リ其義務ノ執行ヲ保證スルニ足ラサルニ至リシ寸ハ其權利者ヨリ直チニ其義務ヲ得ント許ヘ又ハ書入質ノ不動産ノ増加ヲ得ント求ムルヲ自由ナリトス

第二十二條 書入質ト為シタル負債者其不動産ヲ良好ニ為シタルニ因リ其價増シタルト雖モ其拂方滞リ債主之ヲ引取ル寸ハ其

増價ヲ拂フニ及ハス

債主ノ持權及ヒ書入質ノ權ヲ記入スル方法

第二十三條 債主ノ持權又ハ書入質ノ權ハ此等ノ權ヲ負フタル不動産所在ノ地ノ書入質取扱所ノ簿冊ニ記入ス可シ○商人家資分散ヲ為ス前ニ記シタル證書ノ効ナカル可キ定期内ニ其記入ヲ為シタ

ル寸ハ其効ナカレハシ

第二十四條 同日ニ債主ノ特權ノ記入ヲ

得タル数人ハ書入質取扱所ノ簿冊ニ其日ノ

朝ニ記入シタルト夕ニ記入シタルトノ差別

ナク同一ノ順序ヲ以テ平等ニ行フ可シ

第二十五條 權利者債主ノ特權又ハ書入

質ノ權ノ記入ヲ得ントスルニハ其契約証書

類ノ正本副本ヲ自身又ハ名代人ヲ以テ書入

質取扱所ニ示ス可シ

又其記入ヲ得ントスル者ハ全上ノ書類ニ添

テ箇条書ニ通テ出ス可シ但シ其箇条書ニハ

左ノ件ヲ記ス可シ

第一 權利者ノ姓名住所職業

第二 義務者ノ姓名住所職業

第三 義務ノ證書ノ日附及ヒ本義

第四 其書類中ニ記シタル義務ノ元銀ノ

ノ高又ハ年金ノ為及ヒ義務ヲ得可
キ期日

第五 權利者其權ヲ得ントスル不動産ノ
種類及ヒ其所在ノ地

二一五 第二十六條 書入質取扱者ハ箇条書ニ記

シタル諸件ヲ其簿冊ニ撮記シ義務ノ證書キ
箇条書一通トヲ其記入ヲ求メタル者ニ還シ
證書ノ副本ト箇条書一通トハ之ヲ綴込ニ置

ヘシ但其取扱者ハ其還此スル箇条書ノ末ニ
記入ヲ為シタルノ證ヲ附記スヘシ

二一五 第二十七條 記入ヲ求メタル者及ヒ其名

代人又ハ證書ニ因リ其權ヲ譲リ受ケタル者
ハ書入質取扱所ノ簿冊ニ記シタル住所ヲ易
ハタルオハ之ヲ届出ツヘシ

二一五 第二十八條 書入質又ハ債主ノ特權ノ書

入質取扱所簿冊ニ記入シタルオハ其日ヨリ

十年ノ時間此等ノ権ヲ保有スルヲ得可シ
若シ六年内ニ再々其記入ヲ得サル寸ハ其効
終ル可シ

第二千九條 書入質又ハ債主ノ特権ノ記
入ノ費用ハ別段ノ契約アルニ非サレハ義務
者之ヲ擔當スヘシ。不動産ノ賣買ノ証書ヲ
書入質取扱所ノ簿冊ニ記入スルヲ求メタ
ル寸ハ買主其記載ノ費用ヲ擔當スヘシ

書入質ノ権又ハ債主ノ特権ノ記入ヲ
塗抹スルヲ及ビ増減スル事

第二千十條 書入質又ハ債主ノ特権ノ記
入ヲ塗抹スルヲ及ビ之ニ管係アル者及ビ其塗
抹ヲ為スルヲ得可キノ權アル者ノ承諾ヲ以
テ之ヲ塗抹シ又ハ終審ノ裁判言渡ニ因リ或
ハ更ニ上等裁判所ニ控訴スルヲ得サル裁
判言渡ニ因リ之ヲ塗抹ス可シ

第一千十一條 何ノ場合ニ於テモ其權ノ
記入ノ塗抹ヲ願出ル者ハ一方ノ者之ヲ承諾
シタル者ヲ記シタル證書ノ副本又ハ裁判言
渡書ノ副本ヲ書入質取扱所ニ出ス可シ

第一千十二條 何ノ場合ニ於テモ其權ノ記
入ヲ為シタル地ヲ管轄スル裁判所ニ願出ス
可シ

第一千十三條 法律ニ循ハスシテ記入ヲ為

シタル寸又ハ法ニ適セサル證書又ハ既ニ効
ヲ失ヒシ證書又ハ既ニ算計ヲ為シタル證書
ニ據テ其記入ヲ為シタル寸又ハ法律ニ適シ
タル方法ヲ以テ債主其權ヲ既ニ條除シタル
ニハ裁判所ヨリ其記入ノ塗抹ヲ言渡ス可シ
第一千十四條 未必ノ事ニ當シタル義務又
ハ高ク未定ナル義務アリテ其義務ノ保證ト
シテ不動産ヲ書入質ト為スニ付キ別段ノ契

約ナキ其權利者其義務ハ高ヲ評價シ其高
ニ從テ書入質ノ記入ヲ為シタルニ於テハ其
記入ヲ過分ナリトシテ減スルヲ得可シ

第二千十五條 前條ノ場合ニ於テハ裁判役

其時ノ模様ト事實ノ忠料トニ從ヒ其書入質
ノ記入ノ過分ナルヲ裁判ス可シ但シ當テ
未必ナリシヲ現ニ生シタルニ因リ義務ノ

高ノ更ニ増シタル寸ハ更ニ其增高ニ付テノ
書入質ノ記入ヲ為スヲ得ハシ

義務者ノ不動産ヲ所得ト為シタル者

ニ對シ債主ノ特權又ハ書入質ノ權ヨ

リ生スル諸件

第二千十六條 權利者不動産ニ付テノ債主

ノ特權ヲ取扱所ノ簿冊ニ記入シタル寸ハ其
不動産何レノ人ノ所有ナルヲ問ハス其得

大正官

可其義務ノ順序ニ從テ義務ノ償ヲ得可シ

第二十七條 義務者ノ不動産ヲ所有ト為

シタル者其不動産ニ付テノ義務ヲ免除セサ

ル寸ハ其不動産ニ付テノ義務ヲ尽ク已レニ

擔當ス可シ但シ其所有者ハ元來ノ義務者得

可キ所ノ期限ノ猶豫ヲ受タルヲ得可シ

第二十八條 前條ノ場合ニ於テ義務者ノ

不動産ヲ所有ト為シタル者ハ其義務ノ高ノ

幾許ナルヲ問ハス既ニ拂ヒ期限ニ至リシ具
元銀ト息銀トヲ償ハサル寸ハ其不動産ヲ全
ク拋棄ス可シ

第二十九條 義務者ノ不動産ヲ所有ト為

シタル者其元銀ト息銀トヲ償ハス又ハ其不

動産ヲ全ク拋棄セサル寸ハ書入質ノ権アル

權利者元來ノ義務者ニ手切ノ書ヲ送り其不

動産ヲ所有トナシタル者其義務ヲ行ハサレ

其不動産ヲ抛棄ス可キトヲ懸合シム可シ
若シ其不動産ヲ所有トナシタル者三十日ヲ
過キテ猶ホ之ヲ行ハサレハ其權利者其不動
産ヲ差押ヘテ賣拂フ可キノ權アリ

第二千二十條 然レ前條ノ場合ニ於テ其義
務ヲ別段一身ニ擔當スルコトナキ契約アル寸
元來ノ義務者其義務ニ付キ書入質ト為シタ
ル不動産ノ残り有ルニ於テハ新ニ不動産ヲ

所有ト為シタル者已レノ得タル不動産ノ賣
拂ヲ拒ミ此扁保證ノ部ニ記スル法式ニ循キ
残りノ不動産ヲ以テ先ツ其義務ノ償ニ充テ
シム可キノ許ヲ為スコトヲ得ヘシ但シ其許ヲ
為ス時間ハ其所有ト為シタル不動産ノ賣拂
ヲ延ス可シ

第二千二十一條 義務者ノ不動産ヲ所有ト為
シタル者其義務ヲ行フコトヲ一身ニ擔當スル

契約ナキモハ其不動産ヲ拋棄シテ其義務ヲ
免ル、ト自由ナリトス

第二千二十二條 義務者ノ不動産ヲ所有トナ
シタル者ハ其義務アリト自認シ又ハ裁判所
ヨリ其義務ヲ行フ可キノ言渡ヲ受ケシ後ト
雖モ其不動産ヲ拋棄シテ其義務ヲ免ル、ト
ヲ得可シ但シ其者其不動産ヲ拋棄スト雖モ
之ヲ迫リ賣ト為スニ至ル迄ハ其義務ノ高ト

其義務ニ付テノ費用ノ高トヲ拂フナハ其不
動産ヲ取戻スノ妨トナルヲナシ

第二千二十三條 義務者ノ不動産ヲ所有ト為
シタル者之ヲ拋棄スル、トハ其不動産所在ノ
地ノ裁判所ノ届記局ニ届書ニ通テ出シ其一
通ニ其裁判所ヨリ拋棄ヲ為シタル証印ヲ押
シ、與フ可シ
其不動産ニ付テ其權利者ノ求メニ從ヒ其拋

棄シタル不動産ノ監財人ニ任ス可シ但シ其
權利者ハ監財人ニ對シテ其不動産ノ賣拂ヲ
求ム可シ

第二千二十四條 義務者ノ不動産ヲ所有ト為

シタル者ノ過失又ハ所為ニ因リ其不動産ヲ
卑悪ニ至ラシメ書入質ノ権アル者ノ損害ヲ
生シタル者ハ其者ヨリ其不動産ヲ所有ト為
シタル者ニ對シ其償ヲ得ント訴フルヲ得

可シ又其不動産ヲ所有ト為シタル者其不動
産ヲ良好ニ為シタル者ハ之ニ因リ其價ノ増
加シタル高ニ至ル迄之ヲ良好ニ為シタル費
用ノ高ヲ取戻スヲ得可シ

第二千二十五條 義務者ノ不動産ヲ所有ト為

シタル者ハ其不動産ニ付キ書入質ノ権アル
者ヨリ其義務ノ償又ハ其不動産ノ抛棄ヲ要
スルノ訴訟ヲナシタル後ハ其不動産ヨリ得

ル所ノ入額ヲ其権アル者ニ渡スヘシ

第二十六條 義務者ノ不動産ヲ所有ニ為

シタル者其償高ヲ拂ヒ其不動産ニ付テノ義

務ヲ免除セント欲スル寸ハ後ニ記シタル條

除ノ法式ニ循フ可シ

債主ノ特権及ヒ書入質ノ権ノ消散スル

事

第二十七條 債主ノ特権及ヒ書入質ノ権

ハ左ノ諸件ニ因リ消散ス可シ

第一 主タル義務ノ消散スル

第二 権利者書入質ノ権ヲ抛棄スル

第三 義務者ノ不動産所有ノ権ヲ得タル

者其不動産ニ付テノ書入質又ハ債

主ノ特権ヲ免除スル為メ定メタル

法式ヲ行フタル

債主ノ特権及ヒ書入質ノ権ヲ免除ス

第二千二十八條 債主ノ特權ヲ除去セント欲
 スルオハ既ニ其拂ヒ期限ニ至リシト否トヲ
 問ハス其不動産ノ價高ニ至ル迄ハ總テノ負
 債及ヒ費用ヲ即刻拂ハント為スヲ權利者
 ト契約シタル書面ニ通テ其不動産所在ノ地
 ノ書入質取扱所ニ出シ取扱所ヨリ其一通ニ
 証印ヲ押シ渡セシ上元来ノ簿冊ハ塗抹スヘシ

書入質取扱者ノ擔当ス可キ条件

第二千二十九條 書入質取扱者ハ其證書ノ寫

又ハ其簿冊ニ記入シタル債主ノ特權又ハ書
 入質ノ權ノ記入ノ寫又ハ其記入ナキノ請合
 書ヲ得ント求ムルモノアルオハ此等ノ書類
 ヲ渡ス可シ

但シ其簿冊ヲ見シヲ求ムルヲ自由ナリ
 トス

第二十三十條

因り生シタル損失ノ償ヲ擔當ス可シ

第一 其簿冊ニ不動産所有ノ權ヲ移ス証書ヲ登記ス可キノ求メヲ受ケ又ハ書入質ノ權及ヒ債主ノ特權ノ記入ヲ為ス可キノ求メヲ受ケテ之ヲ怠リタル寸

第二 現ニ記入シタル一箇又ハ數箇ノ債

主ノ特權又ハ書入質ノ權アルヲ忘レ此等ノ權ナキノ請合書ヲ渡シタル寸

第二十三十一條

書入質取扱者ハ不動産所有ノ權ヲ移ス証書ヲ登記スルヲ書入質ノ權ヲ記入スルヲ書入質記入ノアラサル請合書ヲ渡スヲ拒ミ又ハ遅延ス可カラス若シ之ヲ拒ミ又ハ遅延スル寸ハ其損失ヲ受ケタル者

ニ償ヲ為ス可シ但シ其損失ヲ受ケタル者其償ヲ得シトスルニハ其旨ヲ裁判所ニ願出ツ可シ

二二

第二千三十二條 書入質取扱所ニハ別ニ簿冊ヲ設ケ置キ不動産所有ノ權ヲ移ス証書又ハ書入質ノ權及ヒ債主ノ特權ノ記入ヲ得ル為メノ箇条書ヲ受取リタルヲ毎日番號ヲ附シテ其簿冊ニ書留メ且願出テタル者ニ其差

出セシ証書又ハ箇条書ヲ受取リタル旨ヲ証スル書付ヲ渡ス可シ但シ其受取書ハ之ヲ書留メタル簿冊ノ番號ヲ附記ス可シ其取扱者ハ不動産所有ノ權ヲ移ス証書又ハ書入質ノ權及ヒ債主ノ特權ノ記入ヲ得ル為メノ箇条書ヲ受取リタル順序ト日附トニ從ヒ此等ノ書類ヲ簿冊ニ撮記スハシ此簿冊ハ登記ノ簿冊ヲ云フ

大正

第二十三條 書入質取扱者ノ簿冊ハ其所
在ノ地ヲ管轄スル裁判所ノ裁判役一人其簿
冊ノ初葉ヨリ冊尾ニ至ル迄押印スヘシ

抵償

權利者義務者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪
フ事

第二十四條 權利者ハ左ノ諸件ヲ抵償ト
シテ奪ハントスルヲ裁判所へ訴へ出ルヲ

ヲ得可シ

第一 義務者ノ所有スル不動産及ヒ其不

動産ニ附帯シテ不動産ナリト者做

ス可キ物

第二 不動産ニ付義務者ノ有スル入額所

得ノ權

第二十五條 既ニ後見ヲ免シタルト否ト
ヲ問ハス幼者ヨリ義務ヲ得可キ者又ハ遺産

ノ禁ヲ受ケシ者ヨリ義務ヲ得可キ者ハ先ツ
其動産ヲ以テ其義務ノ償ヲ得ルニ充テ用ヒ
猶其不足ナル時ハ其不動産ヲ抵償トシテ賣
拂フコトヲ得可シ

第二千三十六條 丁年者ト幼者又ハ治産ノ禁
ヲ受ケシ者ト連帶シテ義務ヲ負フタル時ハ
權利者其共通スル不動産ヲ抵償トシテ賣拂
ヲ前ニ先ツ其動産ヲ以テ義務ノ償ニ充テ用

フルコトヲ必要トセズ

第二千三十七條 夫婦共通ノ不動産ヲ抵償ト
シテ奪フコトハ妻其夫ト共ニ義務ヲ負タル時
ト雖凡其夫ノミニ對シテ訴テ可シ

夫婦共通セサル婦ノ不動産ヲ抵償トシテ奪
フコトハ夫婦雙方ニ對シテ訴テ為ス可シ

第二千三十八條 凡ソ權利者ハ其書入質トシ
テ得タル不動産ノ不足ナル時ハ書入質ト為

サ、ル不動産ヲ抵償トシテ賣拂ヒテ訴ル
ヲ得ヘシ

第二千三十九條 數箇ノ下等裁判所ノ管轄内
ニアル不動産ヲ抵償トシテ奪ヒ之ヲ賣拂フ
トハ同時ニ之ヲ訴フ可カラズ先ツ其事ヲ一
ノ裁判所ニ訴ヘ次ニ他ノ裁判所ニ訴フ可シ
其不動産相連接シタル時ハ其不動産中ノ義
務者本住所ヲ管轄スル裁判所ニ其訴ヲ為シ

若シ本住所其中ニアラサル時ハ地稅ノ目錄
ニ從ヒ其入額ノ最モ多キ部分ヲ管轄スル裁
判所ニ其訴ヲ為ス可シ

第二千四十條 義務者其不動産ヨリ一年間
得ル所ノ實利ノ入額ヲ以テ義務ノ元銀息銀
並ニ其費用ヲ償フニ足ル可キヲ其不動産
貸貸ノ證書ヲ以テ證シ且其一年間ノ入額ヲ
權利者ニ委遺セントスルヲ述ル時ハ裁判

役其不動産ヲ低償トシテ奪フ可キノ訴ヲ止
メシムルヲ得可シ
但其後ニ至リ其入願ヲ以テ義務ヲ得ルニ充
テ用フルノ妨ヲ生シ又ハ故障ヲ迷ル者アル
時ハ再々其不動産ヲ抵償トシテ奪フ可キノ
訴ヲ為ス可シ

第二千四十一條

義務者其義務ヲ行ハサル時
ハ其不動産ヲ以テ其償ニ充ツ可キ旨ヲ記シ

タル証書アルニ非サレハ其不動産ヲ抵償ト
シテ賣拂フヲ訴フ可カラス

第二千四十二條

義務ヲ行ハサル者ノ不動産
ヲ以テ其償ニ充ツ可キ旨ヲ記シタル證書ヲ
譲リ受テタル者ハ其譲リ受タル旨ヲ義務者
ニ報告シタル後ニ非サレハ其不動産ヲ抵償
トシテ奪フヲ訴フ可カラス

第二千四十三條

其訴訟ハ假リニ執行ヲ可キ

假リハ裁判言渡又ハ確定ノ裁判言渡ヲ以テ
之ヲ為スコトヲ得可シ然レ不動産ノ迫リ賣ハ
終審ノ確定ノ裁判言渡又ハ控訴スルコトヲ得
サル確定ノ裁判言渡ヲ得タル後ニ非サレハ
之ヲ為ス可カラズ

又義務者ノ出席セスシテ裁判言渡シヲナシ
タル時ハ義務者ノ故障ヲ述ルコトヲ得可キ期
限内ニ迫リ賣ヲ為スコトヲ得ス

第二千四十四條 義務者權利者當然得可キ義
務ノ高ヨリ更ニ多キ高ニ迫賣シタルコトヲ口
實トシテ其迫賣ヲ取消ス可カラズ

第二千四十五條 權利者ハ不動産ヲ抵償トシ
テ奪フ可キノ訴訟ヲ為ス前ニ其義務者又ハ
其住所ニ義務ヲ行フコトヲ求ムル手切レヲ書
テ送達ス可シ
其手切レノ書ヲ記スル法式及ヒ其訴訟ノ法

式ハ訴訟法ニ之ヲ定ム 訴訟法第六百七
十二條以下見合

権利者ノ順序及ヒ不動産價高ノ分派

第二千四十六條 不動産ノ價高ヲ得ルノ順序

及ヒ其分派並ニ之ヲ取扱フ方法ハ訴訟法ニ

於テ之ヲ定ム 訴訟法第六百五十六條以下第
六百六十一條以下第七百四十

九條以下第七百七
十五條見合

満期ノ權

第二千四十七條 満期トハ法律上ニ之ヲ定メテ

三二一九

三二一八

ル規則ニ循ヒ定期ノ満ルニ因リ權利ヲ得又
ハ義務ヲ免ル、ヲ云フ

第二千四十八條 満期ノ權ハ預メ之ヲ人ニ讓

與フルヲ得ス然既ニ得タル後ハ之ヲ讓與

フルヲ得可シ

第二千四十九條 賣買ヲ為ス可カラサル物件

ニ付テハ満期ノ權ヲ得可カラス

第二千五十條 官省府縣廳并學校病院等

三二二七

三二二六

三二二〇

大文官

雖其満期ニ因テ權利ヲ得喪スルハ平民ニ異ナルヲナシ

占有

三三二八

第二千五十一條 占有トハ真ノ所有ニ非サル物件ヲ領シ或ハ權利ヲ行ヒ又ハ代人ヲシテ其物件ヲ領セシメ或ハ權利ヲ行ハシメテ其物件或ハ權利ヲ已レニ保ツヲ云フ

三三二九

第二千五十二條 満期ノ權ヲ得ルニハ已レノ

名義ヲ以テ間断ナク障碍ナク公然ト物件ヲ占有スルヲ必要トス

三三三〇

第二千五十三條 他人ノ為メニ占有シタルノ證無キ時ハ自己ノ名義ヲ以テ占有シタルト看做ス可シ

三三三一

第二千五十四條 本主人寛宥ヲ得タルノミニテハ占有ノ權ヲ得可カラス又満期ノ權ヲ得可カラス

三三三三

第二千五十九條 暴行ヲ以テ占有シタル時ハ

満期ノ權ヲ得可カラス

三三三四

第二千五十六條 現今ノ占有者以前ニ占有シ

タルノ證ヲ立ル時ハ其間斷ノ時ニ於テモ占

有シタルト者做ス可シ

三三三五

第二千五十七條 人ヨリ財産讓與エヲ受ケシ

者ハ其讓與エシ者占有ノ期限ヲ自己ノ占有

期限ニ加ヘテ満期ノ權ヲ得ルヲ得ヘシ

満期ノ權ヲ得ルヲ能ハサル原由

三三三六

第二千五十八條 他人ノ為メ占有スル者ハ幾

許ノ年數ヲ重テ本主數代ヲ經ルト雖モ満期

ノ權ヲ得ヘカラス

故ニ賃借人管守人入額所得者預リ主等ハ満

期ノ權ヲ得可カラス

三三三九

第二千五十九條 賃借人管守人等ヨリ所有ノ

權ヲ移ス名義ヲ以テ其物件ヲ讓リ受タル者

ハ満期ノ権ヲ得可シ

満期除去

第二千六十條 満期ノ権自然ニ除去スルコト

アリ又法律上ニテ除去スルコトアリ

第二千六十一條 満期ノ権ヲ得ントスル者其

本主又ハ其他人ノ為メニ一年以上ノ時間占

有ノ権ヲ奪ハレタル時ハ自然ノ除去ナリト

ス

二二四二

二二四三

第二千六十二條 占有スル財産ニ付裁判所ヨ

リ呼出ヲ受又ハ義務ヲ行フヘキ命令書ヲ受

ケ又ハ義務ノ償トシテ其財産ヲ差押ヘラレ

タル時ハ法律上ノ除去ナリトス

第二千六十三條 左ノ諸件ニテハ満期ノ権ノ

妨トナルコトナシ

裁判所ノ呼出状法式ニ背キタルニ因リ其効

ナキ時

二二四四

二二四七

大文

原告人自カラ其訴ヲ止メタル時

原告人其訴訟ヲ永キ時間

訴訟法第三
九十七條見合 捨テ置

タル時

裁判所ニテ其訴ヲ取上ケサル時

二三四八

第二千六十四條 義務者又ハ占有者其権利者

又ハ本主ノ權ヲ認メタル時ハ満期ノ權ヲ失

フヘシ

二三四九

第二千六十五條 連帶シタル義務者ノ中一人

催促ヲ受タル時又ハ其一人權利者ノ權ヲ認

メタル時ハ他ノ義務者ニ共ニ満期ノ權ヲ失

フヘシ

二二五〇

第二千六十六條 權利者義務者ニ對シ催促ヲ

為シ又ハ義務者權利者ノ權ヲ認メタル時ハ

既ニ許多ノ年數ヲ歴ルト雖モ其保證人満期

ノ限ニ因リ其義務ヲ免ルコトヲ得ス

満期停止

第二千六十七條 幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ル者

ニ對シテハ満期ノ權ヲ得ヘカラス

但シ五年以下ノ満期及ヒ法律上ニテ別段

定タル者ハ格別トス

第二千六十八條 夫婦ノ間ニ於テハ満期ノ權

有ル可カラス

満期限數

第二千六十九條 満期ノ權ヲ得可キ期限ハ日

ヲ以テ算ス可シ

第二千七十條 人權及ヒ物權ニ付テハ三十

年ヲ以テ満期ノ權ヲ得ルノ期限トス但シ其

權ヲ得ントスル者ハ嘗テ其物件得タル證書

ヲ出スニ及ハス又其權ヲ妨ケントスル者ハ

之ヲ得ントスル者ノ嘗テ不正ニ其物件ヲ占

有シタルヲ述フルヲ得ス

第二千七十一條 年金ヲ受取ル者其証書ヲ日

附ヨリ二十八年ノ後ニ至リ之ヲ書替ルヲ
求ル時ハ之ヲ拂フ者ノ費用ニテ新證書ヲ渡
スハシ

第二千七十二條

実意ヲ以テ正シキ證書ニ因
リ不動産ヲ占有シタル者ハ其本主不動産所
在ノ府縣管轄内ニ住スル時ハ十年ヲ以テ満
期ノ権ヲ得ヘシ又其本主管轄外ニ住スル時
ハ二十年ヲ以テ満期ノ権ヲ得可シ

第二千七十三條

不動産ノ本主其所在ノ管轄
内ヨリ管轄外ニ移住シタル時ハ其管轄内ニ
住居十年ニ足ラサルニ於テハ其不定ニ倍数
ヲ加ヘテ満期ノ数ヲ算計スヘシ
内ニ五年住
ル者管轄外ニ十年住スル
時ハ満期ノ権ヲ得ルノ類

第二千七十四條

満期ノ権ヲ得ル者ハ通常実
意ヲ以テ之ヲ得タリト思料ス可シ故ニ其詐
偽ヲ訴ル者ハ其證ヲ立ツ可シ

第二千七十五條 允義務ヲ認ムヘキ算計書又ハ許訟ヲ受ケタル時ハ満期ノ權ヲ得ヘカラ

第二千七十六條 建築者及ヒ請負人ハ十年ノ

後ニ至リ其嘗テ建築シ又ハ請負タル建造物

ヲ保證スルノ義務ヲ免カル可シ第一千七百九十二條以下

考參

但別段ノ契約ナル者ハ此限りニ非ス

別段ノ満期

第二千七十七條 左ノ許訟ニ付テハ一年ヲ以

テ満期ノ限トス

學藝ノ授業師其弟子ヨリ得ヘキ月謝月俸金

旅宿料飲食料

工丁雇夫ノ給料

醫師ノ診察藥種料

一年ヲ期トシタル雇人ノ給料

第二千七十八條 賣買取引ノ為ニ非スノ賣拂
フタル物品ノ代金ハ二年ヲ以テ満期ノ限ト
ス

第二千七十九條 代言人代書人ノ費用及ヒ謝
金ハ裁判言渡シノ日又ハ和解ヲ為シタル日
又ハ代言人代書人ヲ易ヘタル日ヨリ二年ヲ
以テ満期ノ限トス

又其訴訟ノ未タ終ラサル時ハ五年ヲ以テ期

限トス

第二千八十條 代言人代書人ハ裁判言渡ヨ
リ五年ノ後ニ至リ其管守スル證書類ヲ出ス
可キノ義務ヲ免カル可シ

第二千八十一條 左ノ諸件ニ付テハ五年ヲ以
テ満期ノ限トス

無期ノ年金及ヒ生涯ノ年金
養料トシテ定期毎ニ拂フ可キ金高

家屋及土地ノ貸賃

貸金ノ利息及ヒ其他總テ一年毎ニ拂ヒ又ハ
更ニ短キ期限毎ニ拂フ可キ金高

第二千八十二條 凡五年以下ノ満期ニ付テハ

幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケシ者ニ對スト雖モ
其權ヲ失フヲ無カルヘシ但シ此等ノ者ハ其
後見人ニ對シテ訴ヲ為ストヲ得可シ

第二千八十三條 動産ハ現ニ之ヲ有ヘルヲ以

二二七九

テ其所有ノ權アリト者做ス可シ然レ動産ヲ
見失ヒ又ハ之ヲ盜取ラレシ者ハ之ヲ有スル
者ニ對シ三年ノ間其取戻ヲ求ムヲ得可シ
之ヲ有スル者ハ之ヲ已レニ渡シタル者ニ對
シ其償ヲ得可キ訴ヲ為ストニ得可シ

第二千八十四條 贓物又ハ失物ヲ現ニ有スル
者市場又ハ迫賣ニテ之ヲ買又ハ其筋ノ商人
ヨリ之ヲ買ヒタル時ハ本主相當ノ代金ヲ償

二二八〇

ハスシテ已レニ取戻スコトヲ得ス

第二千八十五條 此法ヲ布告スル時既ニ満期

ニ至ル者猶更ニ其時ヨリ期限ヲ算スヘシ

二二八一

此民法寫本ハ明治五年壬申四月十二日ヨリ會
議ヲ司法省明法寮ニ於テ創メ七月十三日ニ畢
ル者其議ニ會スル官員左ノ如シ

明法寮權頭楠田英世

大法官津田真道

中判事箕作麟祥

中議官細川潤次郎

權大法官鷺津宣光

大文官

少議官 生田 精

少議官 永井 尚忠

明法寮助 鶴田 皓

權中判事 大草 孝暢

權中法官 小原 重哉

中議生 橫山 由清

少議生 佐久間 長敬

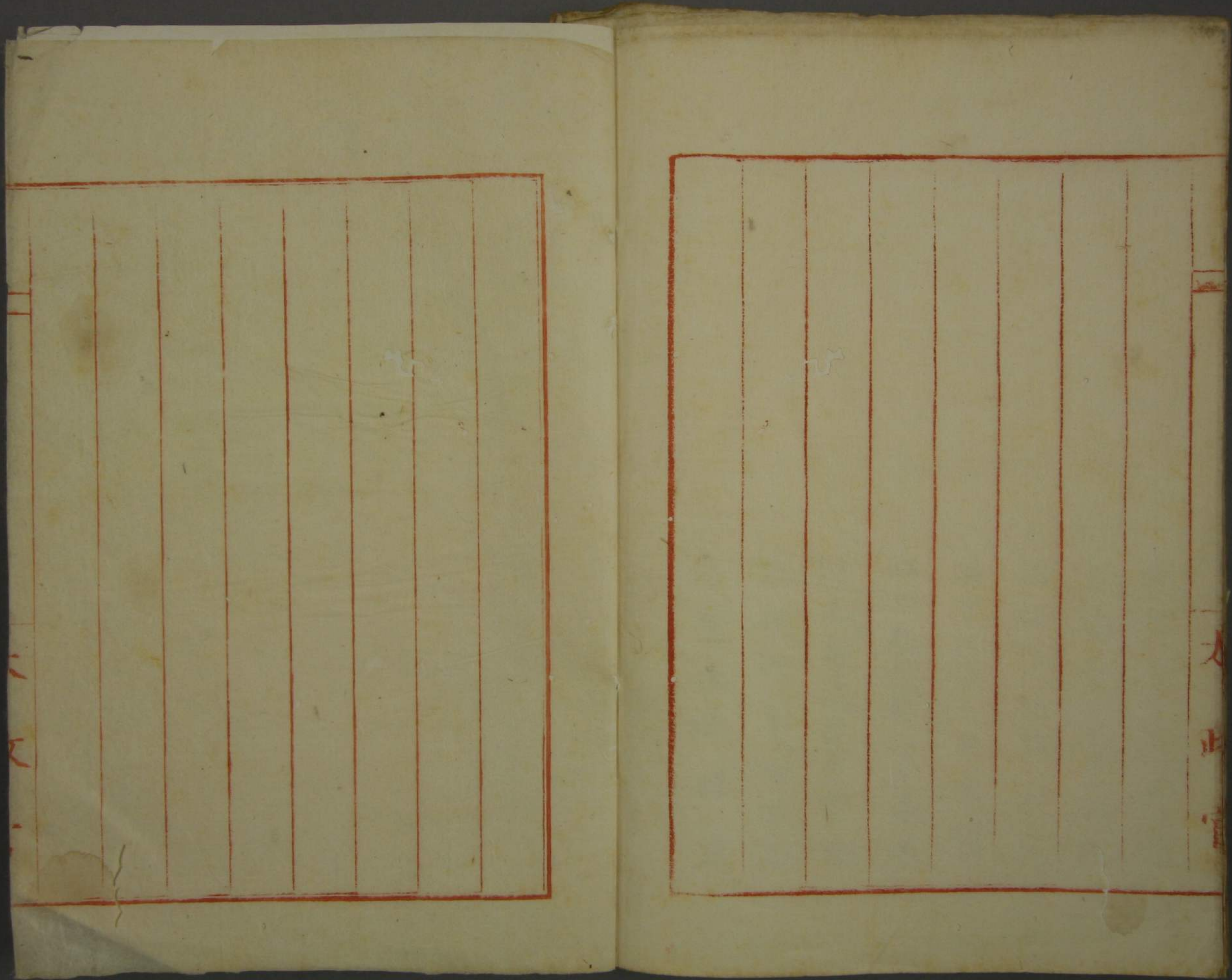
大掌記 依田 董

大掌記 橋 誥 敏

大解部 平山 能忍

明法權大屬 昌谷 千里

明法權中屬 於保 負夫



九
止
官

